

通し番号	4763
------	------

分類番号	26-C5-41-01
------	-------------

丹沢山地におけるブナハバチの防除法の開発
[要約] 丹沢山地の高標高でブナの葉を食害し、枯死・衰弱させるブナハバチの防除法を開発するため、発生予察、成虫の誘引捕獲、幼虫粘着シート、薬剤の樹幹注入試験を実施し、これらを効果的に組み合わせた防除体系を確立した。
自然環境保全センター研究企画部研究連携課 連絡先 046-248-0321

[背景・ねらい]

県北西部の丹沢山地では、ブナハバチに葉を食害され、繰り返し失葉したブナが衰弱し、枯死していく事例が多数観察されており、現存するブナを守るための防除技術の開発が求められている。対象地域は丹沢大山国定公園の特別保護地区などの自然度が高いブナ自然林であり、アクセスの悪い山岳地でもある。そこで、環境負荷が小さく、省力的でありながら効果が高い防除技術の開発を目指し、発生予察、成虫の誘引捕獲、幼虫粘着シート、薬剤の樹幹注入試験を実施した。

[成果の内容・特徴]

- 1 成虫に対して誘引効果がある黄色の衝突板トラップを用いて、産卵期に当たる展葉期のメス成虫捕獲数により食害量を事前予測することができた（表1）。
- 2 成虫の大量捕獲を目指し、黄色の衝突板トラップを異なる環境に設置したところ、尾根筋で効果的に捕獲できることが分かった（図1）。
- 3 樹幹に群がる行動をとる幼虫を捕獲するための樹幹粘着シートを、2013年の大発生時に3地点548本のブナに設置したところ、推定で75万個体が捕獲された（表2）。
- 4 苗畑のブナ若木の樹幹に薬剤を注入してメス成虫を放虫したところ、大部分が産下卵の状態で死亡し、一部孵化した1例幼虫もすべて死亡した（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 これら技術を効果的に組み合わせた防除体系を確立した（図3）。
- 2 自然度の高いブナ林での防除であることから、生態系影響への配慮が求められる。

[具体的データ]

表1 ブナハバチ発生予察

項目	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
メス成虫捕獲数	92±38	226±87	93±29	451±234	95±32
食害予測	-	-	-	大	小～中
実際の食害状況	中	大	小	大	小

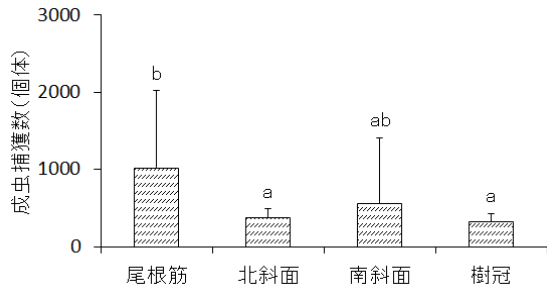


図1 黄色の衝突板トラップによるメス成虫捕獲数

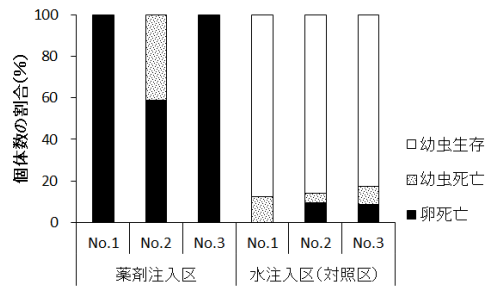


図2 苗畑における薬剤注入試験

表2 粘着シートによる幼虫防除事業

項目	丹沢山	檜洞丸	大室山
設置本数 (調査不可本数)	135本	200本	213本
食害本数の割合	23.7%	66.7%	76.9%
推定捕獲数の合計	51,141 個体	458,763 個体	242,889 個体

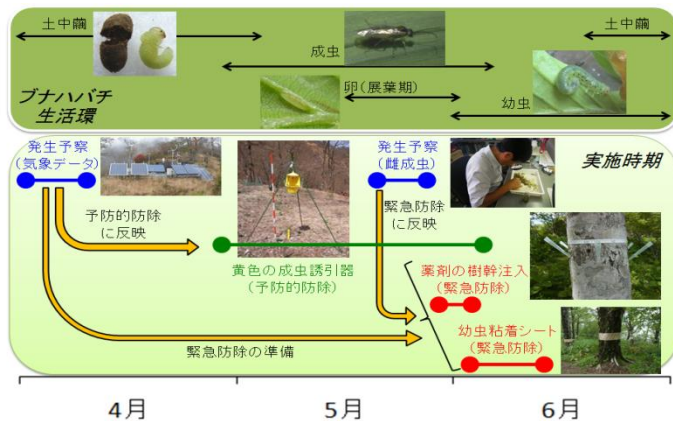


図3 ブナハバチ防除体系

[資料名] 平成26年度自然環境保全センター研究連携課業務報告No. 47

[研究課題名] ブナハバチ防除試験

[研究期間] 平成24～28年度

[研究者担当名] 谷脇徹